

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	総合政策学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ (学部) コースワークとリサーチワークのバランス (院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供 (学部) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容 (学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供 (院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供 (専院)

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。

A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 質の高い研究発表を行うための教育プログラムを整備する。	→学部生を対象とした研究発表会「リサーチフェア」における審査基準の設定と参加者数の倍増。	B	B	A		
2. 三田市等の小中学校の「国際理解教育」のサポートとして学生を派遣し、学部での学びを教育現場で実践する機会を設ける。	→「国際理解教育」をサポートする「ボランティア・ティーチャー」制度の有無。	B	B	B		
				☆		
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	リサーチ・フェアにおいて、2011年度から発表内容のレベルアップを目的として、発表概要による事前審査と審査員による表彰制度を導入した。また大学院生の発表も義務化したため、学部学生にも刺激を与えることとなり、発表が活性化した。応募件数は2010年度の92件から152件へと大幅に増加した。特に1年次学生は基礎演習単位でディベート大会への参加を制度化した。
★ 目標2	ボランティア・ティーチャー制度のもとで3回、学生グループを地元小学校に派遣し、国際理解教育をサポートするとともに学びを実践した。
備考	